

## 22 ロッキンバー

—ヘロン夫人の歌—

若者ロッキンバーが西からやって来ました  
ボーダー地方広しといえど 彼の馬こそ最高の馬  
携<sup>たずさ</sup>えるのは見事な幅広剣ただ一振り  
他に武器無く 他に助っ人無く  
かくも一途<sup>いちず</sup>に愛し 怯<sup>ひる</sup>まず闘う男 5  
世に若者ロッキンバーほどの騎士はいませんでした

藪に足留めくろうことなく 岩<sup>あし</sup>に脚止めくろうことなく  
エスク川は浅瀬が無くても泳いで渡った  
しかし ネザビーの城門で馬を降りるその直<sup>まえ</sup>前に  
女は花嫁になることを承諾し 男の到着は一足遅かった 10  
愛することにも闘うことにも鈍<sup>のろま</sup>間な腰抜け野郎が  
勇敢なロッキンバーの恋人エレンと結婚することになったのです

大胆にもロッキンバーは ネザビー城の大広間に踏み込んだ  
花嫁の付き添いの者たち 親族兄弟みな居並ぶ中に  
花嫁の父親<sup>つか</sup>が柄に手をかけ 口を開いた 15  
(哀れ臆病者の花婿からはひと言も無かったから)  
「祝いに参られたか それとも 果たし合いに  
それとも 披露宴の舞踏にご参加か お若きロッキンバー卿よ」

「長きにわたって貴殿の娘に求愛し 貴殿<sup>こぼ</sup>に拒まれ続けてきた  
愛はソルウェイ湾<sup>うしお</sup>の潮のごとし 満ち潮のあとは引く運命<sup>さだめ</sup> 20  
かくなる失意の念を抱きて参上いたすは  
一曲踊り 一献<sup>いっこん</sup>祝杯を上げんがためなり  
スコットランドには 貴殿の娘より遥かに美しい娘<sup>むすめご</sup>子はいくらでも  
みな喜んで 若者ロッキンバーの花嫁になるだろう」

花嫁がゴブレットに口付けをし 騎士はそれを取り上げて 25  
ワインをひと息に飲み干すや グラスを投げ捨てた  
花嫁は顔赤らめて目を落とし ため息ついて目を上げた  
その口元には笑みを 目には涙をたたえていた  
母親が止める間も無く 花嫁の柔らかい手を取って

若者ロッキンバーが誘った「さあ一曲踊ろう」 30

若者の立ち姿は堂々と 花嫁の顔はかくも美しく  
そのような素敵な舞<sup>ガリアルド</sup>踏が広間で踊られたことはかつて無い  
花嫁の母親は苛<sup>いらだ</sup>立ち 父親は憤<sup>いぎどお</sup>り  
花婿は羽飾りを付けた帽子をぶらぶらさせて立ち尽くす  
花嫁の付き添い女たちは囁<sup>ささや</sup>いている 「遥かにお似合いよ 35  
美しい従姉<sup>いとこ</sup>のお相手には若きロッキンバー様こそ相応しい」<sup>ふさわ</sup>

花嫁の手に合図を送り 耳元にひと言ささやき  
広間の入口に近づくと 近くに馬が待機中  
若者は 美しい花嫁を後ろに軽々と持ち上げ  
自分は 前の鞍に軽々とまたがった 40  
「花嫁は頂<sup>いただ</sup>き いざ行かん 野越え山越え断崖越えて  
奴らが 早馬駆って追ってくる」 と若きロッキンバーは意気揚々

ネザビーのグレイム一族の村を抜け  
フォースター フェニック マスグレイブ一族の村を次々と抜け  
キャノンビー村の放牧地を追いつ追われつ 45  
ついに ネザビーの消えた花嫁の姿を再び見るものはいなかった  
かくも大胆不敵に愛し 怯<sup>ひる</sup>まず闘った男  
若者ロッキンバーほどの勇敢な男の話が今まであったでしょうか

(山中光義訳)